



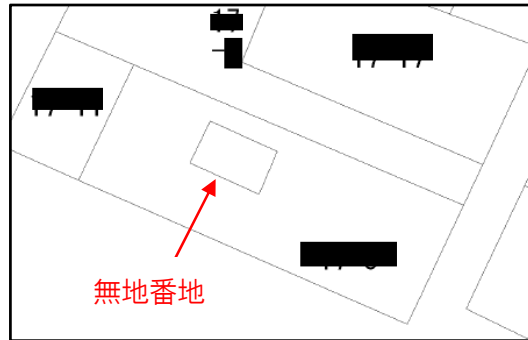
## お岩稲荷の無地番地

新宿区四谷左門町といえば知らぬものなきお岩様の話「四谷怪談」の舞台だ。夫民谷伊右衛門に裏切られ、毒を盛られて美しい顔は無惨に崩されたお岩様。恨み骨髓無念の憤死を遂げたその夜からお岩さまの亡霊が伊右衛門に祟りをなす……。文政8年(1825)に四代目鶴屋南北作「東海道四谷怪談」が江戸中村座で大当たりをとり、一躍大評判となった四谷怪談。今更説明も不要だろう。

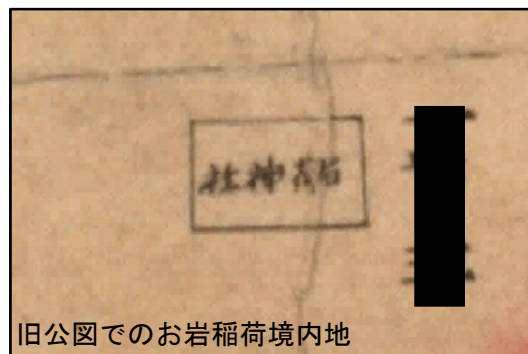
芝居ではお岩様の祟りにより伊右衛門はじめ縁故の者皆死に絶えたはずだが、実は四谷左門町には今も田宮家(芝居の「民谷」は現実の田宮家を憚っての変名だとか)が存続し、お岩様の遺徳をしのぶ神社をお祀りしている。実際のお岩様は貧乏ゆえに夫伊右衛門と別れて奉公に出たが、お稲荷様を信奉しつつよく働き蓄財に励んだため、ついに家運も上向き夫婦二人また一緒に住めるようになった。これもお稲荷様のおかげと屋敷に稲荷を勧請し、霊験を聞き伝えた近所の者がいつしかお岩稲荷と呼ぶようになった。これが江戸時代から続くお岩様の美談であると岡本綺堂も報告している。

そのお岩稲荷こと於岩稲荷田宮神社だが、明治12年の四谷左門町の火災で社殿焼失後、本社は越前堀(中央区新川二丁目)に移転。四谷の跡地にも小祠は存続したが、戦災で焼失後、昭和27年に改めて中央区の本社の飛び地境内として神社が建てられた。

ところで法務局の公図(旧土地台帳附属地図)を見てみると、神社境内地の新宿区左門町〇番〇の土地に謎の四角い土地がある。地番の無い正体不明の無番地である。なんだろうか?井戸の跡か?場所が場所だけに



現行公図でのお岩稲荷境内地(左門町某所)



旧公図でのお岩稲荷境内地

やら怪談めいた気分になるが、もっと古い旧公図を見てみると、この四角の中に「稲荷神社」と書かれていたことがわかる。つまりお岩稲荷の社殿の位置を示していたわけだ。通常公図には土地と土地の境の線(筆界線)のみが描かれ、建物の形状が描かれることはない。にもかかわらずこのような扱いになっているのは実に不可解。地番の付け方などから、この旧公図は昭和16年~27年に作成されたようである。昭和25年の土地台帳法改正により公図は税務署から法務局に移管されるので、おそらくこの公図は終戦前後に税務署によって作成されたのであろう。あるいは当時の税務署員も、お岩稲荷の神威に特別な敬意を払いこのような仕儀に相成ったのであろうか。